

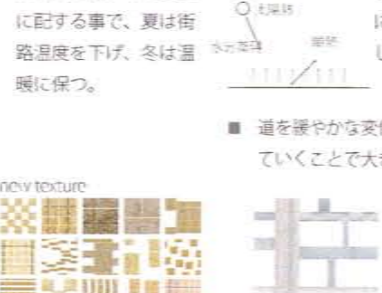


■ diagram
スケールや用途から様々な床を地域に散りばめていく事で、街路空間自体が地域の特徴をさらに強め、都市活動と街路空間をさらに強く結び付けていく。

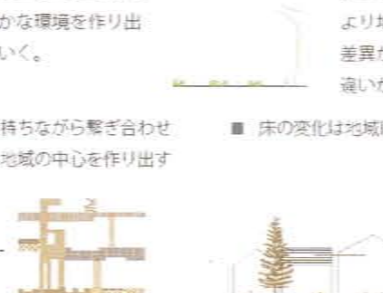
■ 生活や行動とリンクした多様な床を散りばめる
現在仮定的に用いられている素材を、サイズや色彩の変化により多様な、生活や道の雰囲気を読み込んだ床へと切り替え、地域全体へと広げていく。



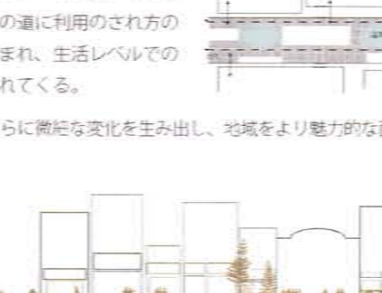
■ 配置・素材によって地域環境を向上させる
保水性セラミックス素材のテクスチャを地域に配する事で、夏は街路温度を下げ、冬は温暖に保つ。



テクスチャと同時に植栽を配することで足元に豊かな環境を作り出していく。



■ 素材のサイズや配置によって地域の性質が床に現れる
素材の配置によって道での振る舞いをアフォードする。それにより地域の道に利用のされ方の差異が生まれ、生活レベルの違いが表れてくる。



■ 道を緩やかな変化を持ちながら繋ぎ合わせていくことで大きな地域の中心を作り出す



■ 床の変化は地域にさらに微細な変化を生み出し、地域をより魅力的な面へと変えていく。



地域を現す道・地域と繋がる床



中野区の中心地には個性的な雰囲気を持った通りが多く広がっている。サンロード裏の飲食店や小規模な店舗が立ち並ぶ小道、小さな坂を持つ住宅街周辺の道、大通り沿いのビルに挟まれた歩行者の多い道、これらの道はそれぞれ特徴を持って広がっている。しかし、これらの道の雰囲気は周囲の建物や道幅によるもので、道自体はあまり違いの少ない仕上げやスケールの素材によって作り出されている。それにより、地域の街路は人の流れがあるところと閑散としたところの差が多く、又街路空間が魅力的に利用されているとも言えない。そこで、地域全体の道に、性質の違いや道ごとの使われ方を頼りに、色彩やスケール、利用法の異なるテクスチャを散りばめていくことで、緩やかに変化を持つ床のように地域の道を作り出していく。新たに広がる地域の道はそれぞれの通りや地域ごとの特徴を生活として映しだしていく。人の生活や街の雰囲気はテクスチャの配置やサイズ、色身によって通りごとの特徴を持ち、緩やかに繋がりを一つ一つの大きな床のように地域に広がっていく。この地域に広がる大きな床は地域の生活や街、道の特徴と密接に関係しながら、中野区の個性的な通りの集合としての大きな中心を造りだしていく。

